

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福山市立内海小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 722 - 2641
広島県福山市内海町 73 番地
E-mail shou-utsumi@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp
Website http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp
幼児児童生徒数 男子 19 名 女子 27 名 合計 46 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「持続可能な社会づくりを積極的に自分で考え行動する子どもの育成」を活動テーマとして、ESD を生活科と総合的な学習の時間や日々の活動と関連させている。ESD の実践を通して多面的・総合的に学習を展開し、よりよい社会の担い手となるための、資質や能力を育てることを目標とした。

具体的には、食育、地域・環境、生物多様性、国際理解、平和・人権を柱に、
①食育・環境に係わる学習、②地域の仕事に係わる学習、③生物多様性に係わる学習、④国際理解や平和・人権に係わる学習を行った。

① 食育・環境に係わる学習

1 年生は年間を通して、季節の花や野菜の栽培を地域の方を講師に招き、学習を進めてきた。身近な自然やその恵み、仕事の大切さに気付くことができた。収穫した野菜はお家で保護者と一緒に料理をし、育てた花は新しい 1 年生を迎える入学式のために育てている。

② 地域の仕事に係わる学習

2年生は生活科の授業で地域の様々な仕事をしている人達を訪ね、仕事の大切さや仕事をしている人達の思いを知ることができた。5人の子ども達が一人一人課題を持ち、自分が調べてみたい地域の仕事を選んだ。相手の方へのアポイントメントから見学での質問や、まとめる方法、発表の仕方までしっかりと考えて行うことができた。

③ 生物多様性に係わる学習

3・4年生は総合的な学習の時間を使い自分たちが住んでいる地域の海の生き物調べを行った。海の生き物指標を使って海岸がきれいかどうかを調べたり、生き物調べを行っていて、砂浜や海岸のゴミの多さに気付き、ごみの種類を調べ始めた子ども達もいた。発表会では、子どもたちは自分たちが住んでいる地域の自然環境とそこに起きている環境問題について新聞にまとめ、自分たちにできることを他の学年や保護者・地域の方々に発信できた。

④ 国際理解や平和・人権に係わる学習

5・6年生は、今回初めて地域の環境問題からユニクロの行っている「届けよう服のカプロジェクト」に取り組んだ。今回の取組によって、本当に服が必要な人たちはどのような環境で何を求めて生活しているのかを考えることができた。世界中のそれぞれの地域に何が起きているのかを調べることで、自分たちの「あたりまえ」が「あたりまえではない」ということに気付き、「もったいない」という言葉のすばらしさを改めて認識することができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 環境委員会の毎日の昼休憩による定点観測)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

みんなのお仕事 瀬戸内海に住む生き物指標 世界の子ども達 戦争と子ども達

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ESD教育を進めるにあたって、「自然環境や資源・エネルギー」で教科・領域を関連付け、多面的・総合的に学習を展開し、よりよい社会の担い手となるための、資質・能力を育てるためにESDカレンダーを作成し、各教科と領域の横断的な関連を明確にしている。友達や他者とコミュニケーションを図りながら、自主的に行動する能力を高められるような資質・能力を意識した学習展開の創造を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

低学年では、体験的な学習を通して、身近な自然や地域の仕事に興味を持つ。中学年では、身近な自然や環境、文化について調べ学習を行う。高学年では、地域の環境問題を中心に調べ学習を行っていたが、今回はユニクロのプロジェクトに取り組んだ。また、委員会活動で日々の気温や湿度を毎日観測してグラフに表している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、12月にESD発表会を参観日に行い、保護者の方々や地域の方々にも公開している。各学年が取り組んできた活動の途中経過やまとめの発表としている。成果としては、児童が自ら地域の清掃や行事などに積極的に参加するようになってきた。課題としては、小学校で地域の環境について調べても、中学校ではその活動を継続できないことである。地域の担い手として育ててきている児童がその先に取り組めないことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各学期ごとに地域の海岸「しやごしの浜」の清掃を全校で行っている。また、夏休みには小中合同で地域の方と清掃活動を行っている。それはESDの推進校で行ってきた活動を基に児童たちに育ってきた「地域を愛する」「地域の担い手としての自覚」というものである。自分たちの取組の発表を見ていただくことも大切だが、児童自らが進んで地域に出ていくことこそがESDで育てたかった姿である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、3・4年生が取り組んだ「海の生き物調査」の時に市の環境課の方に指導をしていただいた。
福山市立大学の生徒(本校の卒業生)の研究に協力させていただいた。
福山市立千年小学校の4年生と「海の生き物調べⅡ」を一緒に行い、たくさんの生き物を見つけることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワークはとることができていない。
来年度は、本校と似た環境問題について取組を行っている学校にアクセスをする予定である。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域の授業協力によるふれあいや体験を通じて、地域の一員としての自覚が高まってきた。
児童一人一人が課題を見つけ、自分から進んで行動することができるようになってきた。また、友達と協力したり折り合いをつけたりする力も育ってきている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

プロジェクト「持続可能な社会づくりを積極的に自分で考え行動する子どもの育成」

低学年：内海の海の生き物に関わることで、自然や生き物の命に関心を持つ。

1年生「うみとなかよし」

2年生「遊びの達人あつまれ」

中学年：内海の海と地域の環境を調べることで、現状から地域の人の思いやできることを考える。

3・4年生「内海の海調べ隊」

高学年：地球規模の環境問題から地域の自然環境や生活環境の問題を見つけ発信する。

5・6年生「内海の環境守り隊」